



## 模試結果の振り返りをする

先月、今年度最後の進研模試(1月模試)を受験しました。その個人成績表は2月下旬に配付される予定です。模試結果の配付に先立って模試の"振り返り"について話をします。

『授業～定期テスト～模試』のサイクルを繰り返すうちに、「学習の振り返り」が習慣化します。その場限りの"振り返り"で終わらせないために、振り返りを生かし次の学習計画を立てることが大切です。

### <「振り返り」のポイント>

○この1年間の授業態度や学習状況を振り返る。その際、今年度受験した模試の結果を踏まえて、補強や復習が必要な教科および分野を確認する。

○2年次の学習目標を具体的に立てる。

### 「定期テストはできるのに、模試で点が取れない！」～ 対応策

#### ①「ここだけは」に絞って対策する。

模試は定期考査と違って範囲が広がるので、模試になると点が取れないという生徒がいます。模試の場合、学習すれば得点できるであろう箇所に絞って対策するのがコツです。具体的には、過去に受けた模試の見直しをして繰り返し復習しましょう。模試では、今までに受けた模試と似た問題が出ることも時々あります。

#### ②「頭に残る」覚え方をする。

例えば、テスト前などに単語を覚えたとしても、テスト後に忘れてしまった経験があるはずです。模試で実力を発揮するためには、覚えたことを繰り返し頭にたたき込んで日頃から定着させることが重要です。以前習ったことを忘れてしまったときに、すぐ復習するか放置してしまうかではっきりと差がつかます。忘れた問題を復習すると、「あーそうだった！」と思い出します。この作業を繰り返すことで、記憶に残りやすくなります。

#### ③丸暗記でなく「理解」をめざす。

模試では知識を組み合わせることで解く問題やいつもと違った出題形式で出されることが多々あります。形式に左右されないためには、「丸暗記」ではなく公式や文法を「理解」することが大切です。つまり日々の学習で解答の流れを意識し、普段学んでいることを他の問題でも使える力にすることが必要です。教科書や定期テストで解いた問題を、解答の流れを意識して振り返るようにすると得点につながります。

## 日々の生活の中で、「引き出しを増やす」ことを意識しよう!

自分の進路希望がより具体化していくと、進学や就職試験のことが気になり出します。その時には、まずは自分の中に「引き出し」を増やすことを意識してみましょ。う。どれだけ引き出しを持ち材料をストックしてきたかということが力の差となり表れます。引き出しの数を増やし材料を多く蓄えている生徒は、文章を的確に読み取ることができます。一方で、問題文の内容を理解する予備知識が不十分で使える材料の備蓄があまりない生徒は、引き出しを作り材料を集める作業から始めなければなりません。この作業は短期間ではかなり難しいというのが現実です。

では、引き出しに材料を蓄えるにはどうすればよいか。

- ①教科学習での知識    ②新聞やテレビ等メディアからの知識    ③読書からの知識

①～③は、長い時間を掛けて引き出しに整理されます。例えば、教育に関する問題なら、読解力低下、学力と経済格差、不登校、いじめや少年犯罪など、様々な材料が考えられます。「私は小論文が必要ない。」という人もいますが、こうした蓄積は就職や進学のための試験に役立ちます。そして、何よりも問題意識が豊かになり、その後の学びの土台になるはずです。

## 2月～3月の行事予定

2月 4日(土)	考查前学習会(希望者)
6日(月)	短縮45分授業
9日(木)～14日(火)	学年末考查
14日(火)	小論文模試(全員) * 定期考查終了後の時間帯 11:45～12:35
16日(木)	短縮45分授業
17日(金)	短縮45分×6校時授業(Ad.コースの7校時目なし)
18日(土)	全統高1模試(申込者)
20日(月)	短縮40分授業
21日(火)～22日(水)	身分証明書写真撮影(次年度用)
27日(月)	短縮45分×6校時授業、卒業式準備
28日(火)	表彰式、卒業式予行
3月 1日(水)	卒業証書授与式
2日(木)	短縮40分×4校時授業
3日(金)	生徒休業日
6日(月)～8日(水)	生徒休業日
9日(木)	短縮40分×5校時授業
10日(金)	水曜日の授業
14日(火)	短縮40分×5校時授業
15日(水)	生徒休業日
16日(木)	短縮40分授業
20日(月)	終業式
28日(火)	離任式

2～3月は年度末に差し掛かるため、変則的な日程になります。繰り返しの指示や連絡を呆然と待つのではなく、「自分事」として各自確認・準備をすること、そして行動することを意識しましょう。そのためにも、次の①、②を習慣化しましょう。

①人の話をしっかり聴く。

②配付された文書等は必ず熟読する。

これらは責任感のある社会人になるためにも必要なことであり、怠ると、他人に迷惑をかけたり、トラブルを起こすこととなります。すべては自分次第です。

## □トピック□ 試験などの緊張状態で力を出すには・・・

人生に影響するような強いプレッシャーがかかるような状況では誰もが緊張するものです。池谷裕二さん(脳科学研究者)の著書『脳には妙なクセがある』(扶桑社)の「本番で実力を発揮するには？」という項目の中に、次のようなことが書かれています。参考までにその一節を紹介します。

入学試験に臨むときに、緊張感を取り除く方法として、様々なアイデアが提案されている。深呼吸をするという比較的まっとうなものから、手のひらに「の」の字を書いて飲み込むというおまじないのようなものまで幅広いが、シカゴ大学の実験からは、「試験への不安を書き出す」方法で緊張感をほぐし、試験成績が10%向上したと報告されている。つまり、現在のどの部分がどう不安なのかを書き出し、素直に吐き出すことで緊張がほぐれるということだ。ただし、初めから堂々として緊張しないタイプの人には変化がなかったという。

### <予告>

今年度最後の学年だよ!(第3学期終業式に発行予定)では、各クラス担任・副担任の先生方から、1年生の皆さんへの「メッセージ」を掲載します。お楽しみに!